

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年4月4日

【評価実施概要】

事業所番号	0970102000		
法人名	社会福祉法人恩賜財団済生会支部栃木県済生会		
事業所名	グループホームとちの木荘		
所在地	宇都宮市徳次郎町2632-1 (電話) 028-666-3377		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成20年2月14日	評価確定日	平成20年4月4日

【情報提供票より】(平成20年1月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年10月1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	18 人	常勤7人(うち兼務1人), 非常勤11人, 常勤換算6.0人	
	18 人	常勤7人(うち兼務1人), 非常勤11人, 常勤換算6.1人	
	18 人	常勤7人(うち兼務1人), 非常勤11人, 常勤換算6.2人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋		
	1階建ての1階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	10,500 円	その他の経費(月額)	・理美容代、おむつ代—実費 ・光熱水費・燃料代—25,000円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(50,000円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要(平成20年1月1日現在)

利用者人数	26 名	男性	6 名	女性	20 名
要介護1	9 名	要介護2	11 名		
要介護3	3 名	要介護4	3 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 84.9 歳	最低	69 歳	最高	101 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	済生会宇都宮病院、ひまわり歯科
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、同法人の特別養護老人ホーム、ケアハウス、認知症介護研修センターなどと併設された一角に位置している。ホームの玄関までのアプローチには生垣が植えられ「離れ」の趣がある。3つのユニットが囲む形で中庭的スペースがあり、バーベキューなども楽しんでいる。QCサークル活動やOJTの活用、職員提案制度など、組織的仕組みとして質の向上を目指す取り組みが多く取り入れており、向上意欲の強さがうかがえる。日課は特に決めず、個々人のペースを大切に、職員はやさしく、おだやかに入居者に接し、入居者が主体的にあるいは職員と一緒に調理や後片付け、洗濯物の取り込みなどを行っている姿が見られた。実習生、研修生などを積極的に受け入れたり、ボランティアも積極的に受け入れている。また、事業所の運営方針や緊急時の対応マニュアルなど内容が盛りだくさんの「年間サービス目標及び計画」を作成し、全職員に配布するほか、家族にも配布しており、高い目標を持ち、オープンな運営に努めているホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価の結果をうけて、改善するところは改善するよう努めている。法人全体としてQCサークル活動や業務改善提案制度を取り入れるなど、改善意識は高い。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価については、それぞれのユニットで実施し、管理者、法人理事が確認した。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	入居者、家族、自治会長、民生委員、地域包括支援センター管理者に参加してもらい、ホームの状況を報告したり参加者からは地域行事の情報ももらうなどしている。職員が学会で実践発表をするにあたって運営推進会議でも見てもらい意見をもらうことなどしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ホーム広報誌「マロニエ通信」を家族に配布している。アルバムを用意し、家族の訪問の際には個人記録を読んでもらったりしている。また、電話のほか、電子メールで報告をすることも。金銭管理においては定期的に確認してもらっている。職員の変更があったときはマロニエ通信で報告している。重要事項説明書にホーム、法人、第三者委員、市、国保連、運営適正化委員会の窓口を明記している。「年間サービス目標及び計画」は家族にも配布しており、要望や苦情の対応方法が説明されている。玄関に意見箱をおいているが、利用されたことはない。要望などについては可能な限り対応するよう努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入している。敷地内にある特別養護老人ホーム時代からの付き合いもあり、お祭りや清掃などの行事に参加したり、駐車場を開放して地域の方と一緒に盆踊りをしたりしている。日常的な近所づきあいが難しい立地とも思われるが、多くのボランティアに来てもらうなど、オープンな運営に配慮している。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設から3年経過した時にそれまでの実践を振り返り、職員で話し合い、「ご本人らしさを大切にした自由な雰囲気の中で、居心地の良い充実した共同生活が送れるよう、地域の中でご家族と共に生活のお手伝いをさせていただきます」という運営理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼時に理念を読み上げて日々共有を計っている。また、職員全員に配布している「年間サービス目標及び計画」の中に運営理念、「その人らしさを活かせる生活を支援します」という年度目標を明記している。	○	法人として平成20年度の職場内研修で法人の成り立ちなどを改めて振り返ることを検討している。併せてホームの役割も再確認しようと考えているので、職員間の意識合わせという意味でも期待したい。
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入している。敷地内にある特別養護老人ホーム時代からの付き合いもあり、お祭りや清掃などの行事に参加したり、駐車場を開放して地域の方と一緒に盆踊りをしたりしている。日常的な近所づきあいが難しい立地とも思われるが、多くのボランティアに来てもらうなど、オープンな運営に配慮している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果をうけて、改善するところは改善するよう努めている。今回の外部評価の結果は運営推進会議でも報告する予定である。自己評価については、それぞれのユニットで実施し、管理者、法人理事が確認した。法人全体としてQCサークル活動や業務改善提案制度を取り入れるなど、改善意識は高い。		

グループホームとちの木荘

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者、家族、自治会長、民生委員、地域包括支援センター管理者に参加してもらい、ホームの状況を報告したり参加者からは地域行事の情報をもらうなどしている。職員が学会で実践発表をするにあたって運営推進会議でも見てもらい意見をもらうことなどもしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の介護相談員派遣事業を利用している。事業所としては、地域密着型サービスとしてのグループホームをより良いものとしていくために積極的に働きかけていくことを考えている。当事業所は、認知症介護研修センターを併設しているため、実践研修（県事業）などの実習なども受け入れられている。	○	ホームでの実践で積み上げてきたことや事業所のみで解決することが難しいことなどを市に投げかけるなどしながら、市とともに認知症ケアの推進を図っていきける関係を深めていくことにも期待したい。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム広報誌「マロニエ通信」を家族に配布している。アルバムを用意し、家族の訪問の際には個人記録を読んでもらったりしている。また、電話のほか、電子メールで報告をすることもある。金銭管理においては定期的に確認してもらっている。職員の変更があったときはマロニエ通信で報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書にホーム、法人、第三者委員、市、国保連、運営適正化委員会の窓口を明記している。「年間サービス目標及び計画」は家族にも配布しており、要望や苦情の対応方法が説明されている。玄関に意見箱をおいているが、利用されたことはない。要望などについては可能な限り対応するよう努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動はあまり頻繁にしないようにしている。職員の担当制を取り入れており、馴染みの関係が築きやすい反面、離職による職員の変更などで入居者・家族への負担感があると考えている。	○	事業所の目標水準は高く、QCサークル活動やOJTの効果的導入など、様々なことに取り組んでいる。現在は、職員会議の機会がなかなか持っていない。チームアプローチをより効果的に進めていく観点で、また、職員間の意識合わせや職員のストレス軽減、モチベーションの向上という観点で職員同士で話し合いを持つ機会づくりなどを検討していくことに期待したい。

グループホームとちの木荘

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所としての研修計画を作成しており、スーパーバイズも取り入れたOJT（業務を通じての研修）を推進している。法人内の勉強会、外部研修受講者による伝達研修の機会がある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協会に加入しており、また、市内及び隣市の認知症高齢者グループホーム事業者の集まりがあり、会場を提供したりもしている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に本人にもホームに来て過ごしてもらうなどしている。入居当初は入居者間の関係づくりも含めて安心できる環境づくりに努めている。また、職員の担当制を取り入れており、職員との馴染みの関係づくりにも配慮している。共用型デイサービスの指定を受けており、今後はデイサービスの利用から入居ということも考えられる。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員が声かけをしたりしながら、入居者と一緒に調理、洗濯物の取り込みなどを一緒に行っていた。料理のことなど入居者から教わることも多い。		

グループホームとちの木荘

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護計画の作成にあたって、本人・家族の希望を聞き、生活歴などの聞き取りをしている。ケアに関する本人に関する新しい情報が加わったときにはアセスメント表を更新している。担当職員がアセスメント、介護計画の原案づくりをしており、馴染みの関係の中で本人本位に検討している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の意向を聞きながら、意向に沿うように担当職員が介護計画の原案を考え、サービス担当者会議で話し合い、計画作成担当者が確認して作成している。個人記録は、入居者の言葉や行動が細かく記され、家族が訪問した際に見てもらったりもしており、計画の見直しにも役立てている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月～半年を目安に見直しをすることとし、入院等、状態に変化があった時にはその都度見直しをしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	共用型デイサービスの指定を受けている。医療連携体制加算の指定も検討されている。買い物や家族が対応できない時の通院など、柔軟な支援に努めている。		

グループホームとちの木荘


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医での受診としており、通院は家族対応となっている。かかりつけ医からのアドバイスで、入居者の状態等を記した要約表を作成し、医師からの通信欄も設けて、双方向の連絡ができるように工夫するなど、入居者が適切な医療を受けられるよう配慮している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化しても、個々その時々にかかりつけ医も交えて相談して対応したりしているが、事業所としての方針は今のところ決定はしていない。訪問時には、抱えたり手を引いたりしながら介助している様子も見られた。	○	事業所として最大限できることや社会資源の検討をしながら、職員間で話し合いを持ち、事業所としての重度化や終末期に向けた基本方針を決定していくことを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	職員必携とも言える「年間サービス目標及び計画」にグループホームの倫理綱領、グループホームにおける権利擁護の指針（共に全国認知症グループホーム協会）を掲載し、プライドやプライバシーに配慮した支援を心がけている。訪問時にも入居者の耳元でさり気なく着衣のみだれを気づいてもらえるような声かけをしている職員の姿が見られた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れはあるが、例えば改めてレクリエーションの時間を設けるのではなく、自然発生的に活動するなど、一人ひとりのペースを大切にしている。入居者は思い思いの過ごし方をしていた。		

グループホームとちの木荘

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も入居者と同じ物を一緒に食べている。献立は法人の管理栄養士のアドバイスを得て介護職員が立て、調理の段階でアレンジを加えるなどしている。3ユニットそれぞれに違ったメニューになっている。好き嫌い、食べられない物などにも配慮し、必要に応じて代替メニューを提供したりしている。調理や片付けは入居者と職員が一緒に行っていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入る方、夕食後に入る方、長風呂を好む方など、それぞれの希望で入浴できるよう支援している。入浴の順番なども入居者を交えて話し合っ対応したりもしている。シャワー浴や足浴なども取り入れている。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理、後片付け、洗濯物の取り込みなどの家事のほか、ボランティアの協力も得ての園芸活動や竹細工、編み物などの趣味活動などを支援している。市民センターを活用したり、地域の文化祭に作品出品もしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所に商店等がほとんどない立地で、買い物は車で出掛けることになるが、敷地が広く、また日中は鍵もかけていないので、散歩など入居者それぞれの希望で戸外に出て過ごせるよう支援している。買い物などの外出や外食の機会を増やせると良いと考えている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵を掛けていない。入居者が外出されるとき傾向を把握し、なるべくなら見守りも控えて自由に外にでられる生活の支援をしている。		

グループホームとちの木荘

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	月に2回消防訓練を実施しており、夜間想定 の訓練なども行っている。自衛消防隊を組織して役割分担し、夜間の場合は併設のケアハウスの応援も得られる体制になっている。地域からの協力は消防団との連携を考えている。ホームにAEDを常備している。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は法人の管理栄養士のアドバイスを 得て介護職員が立てている。食事の量は 毎食確認、記録をしている。水分摂取は 記録はしていないが、食事時、おやつ時 などで必要な水分が取れるようにし、 大まかな摂取量を把握している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には、花や入居者の作品などが華 美にならないよう飾られている。夏場の 強すぎる日差しはよしずで遮ったりして いる。テレビ等の音も大きすぎることは なく、職員の話し声も穏やかだった、 また、室内に気になる空気のよどみな どはなかった。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたものや 好みのものを活かして、本人が居心地 よく過ごせるような工夫をしている	入居者それぞれにタンスやテレビなどを 持ち込み、それぞれの部屋づくりをして いる。部屋の目印も兼ねて、居室入口 に暖簾をかけている方が多かった。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。